

## 【内視鏡検査時の感染対策について】

2020年11月

- 患者様には検査前の検温をお願いし、胃内視鏡挿入時以外（大腸検査中やリカバリー室内）はマスクを着用してもらっています。
- 胃内視鏡検査はほとんどの方が麻酔下で行うため、飛沫やエアロゾルの発生するような嘔吐反射はほぼありません。
- 内視鏡室は排気ダクトによる強制換気に加え、抗ウイルス効果が期待できるHEPAフィルター搭載の空調システムを新たに導入しています。
- 院内設備、備品等は頻繁にアルコール消毒をしています。
- 処置具は使用直前に開封し、洗浄後の内視鏡は専用保管庫にて保管することで浮遊物による汚染を防いでいます。
- スタッフはガウン、手袋、マスク、保護めがねを着用し検査毎にガウン、手袋を交換しています。（現在はコロナ禍で物資が手に入りにくい状況ですが、当院にはもともと十分量のストックがあります）
- 感染管理、機器洗浄等の専門資格である内視鏡技師が開院時より常勤し、ガイドライン以上の徹底した衛生管理を行っています。